

■インド：太陽光発電、卸価格 5 円に

2017 年 2 月 10 日付の報道によると、太陽光発電の 1kWh 当たりの卸電力価格が 2.97 ルピー（約 5 円、1 ルピー：約 1.7 円）まで下落した。マディヤ・プラデシュ州政府が運営する Rewa ウルトラメガソーラーパーク（25 万 kW×3 ユニット）の入札において、第 1 ユニットはマヒンドラ・リニューアルが 2.979 ルピー、第 2 ユニットは Acme ソーラー 2.97 ルピー、第 3 ユニットは Solenergi が 2.974 ルピーでそれぞれ落札した。これらは初年度の卸価格であり、2 年目以降は、15 年間にわたって毎年 0.05 ルピーずつ引き上げられることになっている。これを、契約期間 25 年間で均等化すると、初年度の価格への上乗せ額は 0.33 ルピーとなる。プロジェクトは今後 1 年半以内に完工する予定で、マディヤ・プラデシュ州営配電会社はデリーメトロと 25 年間の売電契約を締結するとしている。インドの国営火力発電公社 NTPC の運営する石炭火力発電所の平均卸価格は 3 ルピー／kWh で、太陽光発電の卸価格が、初めて火力発電を下回った。